



展覧会ファルマコン2021

「死生への捧げもの」

♪クリスマスは、みつしまへ！♪

会場：アトリエみつしま 603-8215 京都市北区紫野下門前町4-4

日時：2021年12月21日—12月25日 11時—18時

入場料：500円（障害者手帳をお持ちの方とその付き添いの方、高校生以下無料）

主催：art-sensibilisation

協力：アトリエみつしま、ギャラリー宮脇

文化庁「Art for the future!」補助対象事業

キュレーター：大久保美紀

出展作家：入江早耶、フロリアン・ガデン、ジェレミー・セガール、西脇直毅、堀園実、三輪眞弘+前田眞二郎

関連イベント：

*思考のワークショップ：特別レクチャー「〈恩寵〉をめぐって」（出演：吉岡洋・加藤有希子 ディスカッション：大久保美紀、ほか）12月22日 14時—16時

*思考のワークショップ：特別レクチャー「資本主義のファルマコン的読解」（出演：吉岡洋 ディスカッション：梶村昌世、福島陽子、大久保美紀、フロリアン・ガデン、ほか）12月23日 14時—16時

●予約不要。どなたでもご参加いただけます。ズーム参加をご希望の方は、大久保美紀 (mimi.okb (@) gmail.com) までご連絡ください。

*オープニングパーティー 12月22日16時—18時

*クロージングパーティー 12月25日16時—18時

展覧会について

「コロナ禍」-2020年に始まったエピデミックは、人類を翻弄する未曾有の大厄災となり、人間世界を変貌させ、その日常生活に深刻な犠牲を強い続ける。非常時の権力はメディアと共謀し、人々の恐怖を煽り、不可視の「敵」を遮断するという大義名分のため、社会・経済・文化・宗教、あらゆる領域にその支配を及す。富める者はますます富み、貧しい者はさらに貧しくなる。貧富の差は拡大し、少数派が細分化されて弱体化する。

COVID-19によるエピデミックでは、戦争・災害・かつてのエピデミックが人類史上一度も塞き止めることのできなかった人々の死者への尊敬の表現と神への集団的礼拝を含む儀式を無力化した。葬儀はオンライン化され、死者に最後の言葉をかける機会も、死者の亡骸と時間を共有する瞬間も失われる。人々は集うことを恐れ、他者を警戒する。我々が真に恐れているのは、ウイルス感染そのものより、風評被害に遭うことや、感染に関与することによって社会から糾弾され居場所を失うこと、あるいは、親族にも会えない孤独死の末に、ビニールの納体袋に詰め込まれて見知らぬ人の手によってあたかも何か恥ずべき存在として沈黙のなか葬られることである。あるいはまた、間もなく起こるかもしれない世界の激変に対する漠然とした不安が生み出した精神的高揚に由来する奇妙な祝祭的な盛り上がり、逆説的にも世界を包み込みつつある。

「コロナ禍」は、新たなエコロジーの創設と共有が今日の我々の切迫した課題であることを明らかにする。フランスの精神科医、フェリックス・ガタリは『三つのエコロジー』において環境・社会・精神という三つのエコロジー（ガタリはこれをエコロジー+フィロソフィーの概念である「エコゾフィー」と名付ける）の必要性を説いた。広大な中国の市場から突如伝播したとされるウイルスの人類におけるエピデミック化を巡って、環境のエコロジーが問い直されるのは言うまでもないが、それが暴き出した脆弱で時代遅れの資本主義社会経済システムを根本から再考することなしに問題は解決しえない。さらには我々個人の精神のレベルで今後の世界におけるより良い生き方が共有されることなくして、事態の収束もその後の世界も見えてこない。私たちは抜本的な方法で生き方そのものを見直すべき局面に立っている。

本展覧会は、物事の本質的な両義的側面に着目する「ファルマコン」（薬=毒=生贄/犠牲）の概念を手がかりに、今日の私たちが無視することのできない状況としての「コロナ禍」（そして、その後の世界としての「ポストコロナ」）の世界をいかに生きて死ぬことができるのか、芸術を通じたアプローチによって導きうる新たなエコロジー哲学とはいかなる思想であるかを問う。



大久保美紀
キュレータ

出展作家と展示作品

入江早耶

岡山生まれ。2009年に広島市立大学大学院を修了し、現在広島を拠点に活動中。ありふれた日用品に潜むルーツや背後の物語に着目し、新たな息吹を与えることをテーマとしており、代表作として掛軸や写真などの二次元のイメージを消し、出たカスを用いて三次元の立体物に再構築するダストシリーズがある。

かつては各家庭にあった薬箱と薬袋を消しゴムで消して得られた消しカスから彫像された「青面金剛困籠奈ダスト」と「赤面金剛困籠奈ダスト」は、元来疫病神として恐れられていた明王がのちの民間信仰において、疫病が身を祀ることを通じて病を防ぐための神に変化した。元来疫病神として恐れられていた青面金剛明王は、のちの民間信仰において、その疫病神を祀ることを通じて病を防ぐための神に変化したという。悪から目を背けずに、それをむしろ受け入れて祀った人々へのオマージュである当作品は、私たちが現在直面している問題を乗り越えるための道しるべとなるだろう。現代版青面金剛明王の手には、マスクや石鹸や消毒ジェルが握られ、明王の足元の申（サル）たちも手袋やゴーグルを身につけている。現代版赤面金剛明王の手には、ハンドソープやワクチンの他、手に持っている槍にマスクを干している。

「超疫病退散 青面金剛困籠奈 ver.」と「超疫病退散 赤面金剛困籠奈 ver.」は、二つの金剛明王像を版画化したもので、四字熟語に「超」を付け足すことで、ご利益の最強化を図っている。

- ・「超疫病退散 青面金剛困籠奈 ver.」和紙に消しゴム版画、手彩色、33×45cm、2021（下の図左）
- ・「超疫病退散 赤面金剛困籠奈 ver.」和紙に消しゴム版画、手彩色、33×45cm、2021
- ・「赤面金剛困籠奈ダスト」薬箱、薬袋、消しゴムのカス、樹脂、H40×W24×D20 cm、2021
- ・「青面金剛困籠奈ダスト」薬箱、薬袋、消しゴムのカス、樹脂、H40×W24×D20 cm、2021（下の図右）
- ・「薬魔地蔵ダスト」、薬袋、消しゴムのカス、樹脂、サイズ可変、2021



フロリアン・ガデン

フランス在住美術家。ミクロとマクロの視点を行き来し、生物彫刻や精密な絵画を日仏で発表。近年は、細胞構成体・免疫系の相互作用・バクテリアやウイルスが描きこまれた巨大な絵画作品（200m×400m）の作品『œ』や、生態系の研究調査に基づいて、一本の木が孕む複雑な生態系を繊細なテクニックで描きこむ『arbre monde』に取り組む。

2018年-2019年に制作された『œ』は、ウイルスを「見えない敵」とみなすコロナ禍の私たちが、これに翻弄され、行き詰まる状況を予言するかのような奇妙な作品である。細胞構成体、免疫系の相互作用、バクテリアやウイルスが描きこまれた巨大な絵画は、上部はボッティチェリのバベルの塔、下部はダントの地獄絵にインスピレーションを受けた生物彫刻である。上部には、健全な細胞が、下部にはウイルスやバクテリア、病に侵された細胞が描かれる。その二つが出会う中心部は、複雑な免疫系の反応が表されている。二元論的思考が陥る危険性を指摘し、既存のヒエラルキーの枠組みを改め、新たなエコロジー哲学の模索を訴える。シリーズ「alien familier」は、X線写真で撮影された身近な動植物をアクリル素材で描き出した作品である。身近な生物が異化された姿で浮かび上がることにより、我々を取り巻く環境や生物に対する慣習的な視線や態度を揺さぶる。

- ・「œ」ミクストメディア、200×400 cm、2019（下の図左）
- ・シリーズ「alien familier」より「corneille」、キャンバスにアクリル素材、直径40cm、2021（図右下）
- ・シリーズ「alien familier」より「champignon」、キャンバスにアクリル素材、直径40cm、2021
- ・シリーズ「alien familier」より「frelon」、キャンバスにアクリル素材、直径40cm、2021
- ・シリーズ「alien familier」より「bouton de fleur de lotus」、キャンバスにアクリル素材、直径40cm、2021
- ・シリーズ「alien familier」より「rat」、キャンバスにアクリル素材、直径40cm、2021（図右上）
- ・シリーズ「alien familier」より「poisson chat」、キャンバスにアクリル素材、直径40cm、2021

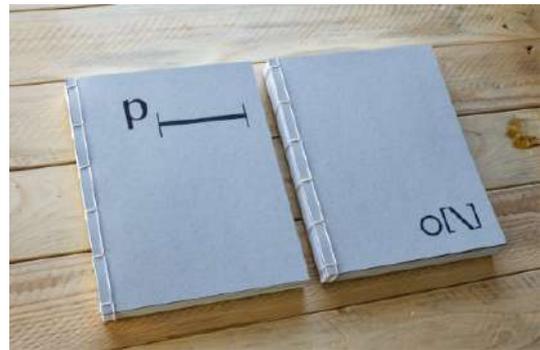


ジェレミー・セガール

フランス・ナント在住、美術家。ナント国立高等建築学校講師。ナント市大学病院（CHU）にてレジデンスを行う。医療とエコロジーの芸術的アプローチについて思考するアートアソシエーション LOTOKORO 主宰者。「衛生」の概念を主軸に据えた研究・実践活動を展開する。

本展覧会では、セガールがこれまでの6年に及ぶ研究活動で取り組んできた、衛生、ケア、緑地、消毒をめぐる、ほぼすべてのドローイングをアーカイブした二冊のエディッション on と ph を展示する。ドローイングは直感的に思考するための手段であり、パフォーマンスを再録し、現場でおこったことを記録する手段である。ドローイングはセガールにとって、アクションをするための、そして、生命と関係し、その繊細なありかたを研究するための触媒のようなものである。つまりは、日常生活において感性を磨くための基礎となるものである。

- ・「on」、紙にプリント、19,3 x 25 x 2,7 cm、2021
- ・「ph」、紙にプリント、19,3 x 25 x 2,4 cm、2021

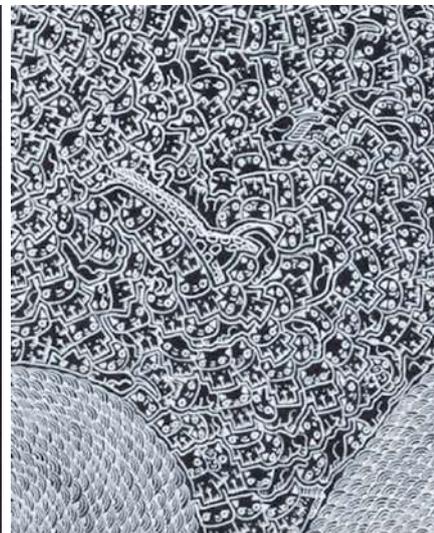
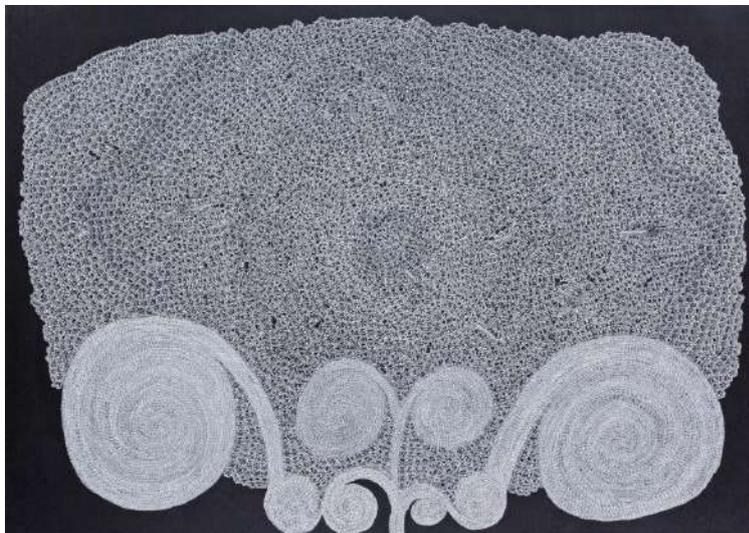


西脇直毅

1977年生まれ。大阪市在住。成安造形大学卒業後、07年IAMAS修了。09年よりボールペンによる絵画制作に専念するようになる。泡のように不定形で有機的な全体像は、縄目の文様と、一つ一つ表情のちがう“猫”の文様が、果てしなく連続することによって形づくられている。

増殖と反復を主題とした細密な絵画は、それらを編み込んでいくプロセスの中に何らかの生命体の精神性が浮き彫りになるような独特の世界観を有している。細かな細胞のようにも、仏教の曼荼羅のようにも見えるイメージは、不可視の世界とのコミュニケーションを試みる糸口を提示する。

- ・「素晴らしき人生」紙にボールペン、76.7x108cm 2013
- ・「無題」黒い紙に白ボールペン、76.8x108.7cm、2013年頃（下の図：全体、部分）



堀園実

沖縄県立芸術大学大学院彫刻専修修了、パリにて1年間の滞在研修を経て現在は静岡を拠点に活動。毎日のように通う地元の海岸の風景が、生きていく中で感じる疑問や違和感を思考する際の比喩的な存在となっている。近年はその風景を借りて、写真を撮るように見たままの一場面を立体に写し再構成した作品に取り組む。

「明日の印画」は砂浜を石膏で型取った彫刻作品である。砂浜に残った人や生き物の跡が風や波にさらわれて消え、またその上に新たな痕跡がつくられる。その浜辺の出来事の写真を撮るように、砂が写し取った形そのものを彫刻として記録する。対象の表面を直接石膏で型取るという精密な技法は、繊細な触感を実現しつつ、ノイズのような砂粒を残し、過度に磨き上げない自然な心地良さを感じさせる。光により凹凸が際立った彫刻は、山脈風景のジオラマのようにも見える。

- ・「明日の印画」石膏、H85×W110×D10 cm、2021
- ・「明日の印画 釣り人」石膏、H52×W74×D3 cm、2021
- ・「明日の印画 犬と人Ⅰ」石膏、H18×W19×D3 cm、2021
- ・「明日の印画 犬と人Ⅱ」石膏、H22×W20×D3 cm、2021



三輪眞弘＋前田眞二郎

三輪眞弘（作曲家）は「逆シミュレーション音楽」という独自の作曲論を提唱し、2007年アルス・エレクトロニカのデジタルミュージック部門グランプリ受賞。前田眞二郎（映像作家）は映像メディアを「未知を発見する道具」と捉え実験映画、ドキュメンタリー、メディアアートの分野を横断しながら発表を続ける。二人は情報科学芸術大学院大学（IAMAS）教授。

2020年9月19日から20日にまたがる3時間、コロナ禍の世界における私たちの生と死のあり方とそこに見出される人間中心的な振舞いに焦点を当て、コロナ世界において犠牲にされた死者への尊厳を大量殺戮されてきた家畜（鶏たち）へのオマージュとして具体化した『清められた夜』を無観客のサラマンカホールで上演しライブ配信した。展覧会では、リアルタイムでしか体験することのできないこのコンサートのハイライト映像（12分）を上映し、本コンサートのためのウェブサイトを会場に設置したコンピュータで閲覧することができる。

ぎふ未来音楽展 2020 三輪眞弘祭 - 清められた夜 -

Highlights "Purified Night" 12min./2021/Shinjiro Maeda

2020年9月19日（土） - 岐阜市 サラマンカホールよりライブ配信 -

23:00 - 三輪眞弘《鶏たちのための五芒星》（2020 委嘱・世界初演）

23:20 - 23:50 ヨハネス・オケゲム《死者のためのミサ曲》（15世紀）MIDIアコーディオンとオルガン版

24:10 - 24:30 フォルマント兄弟《霊界ラヂオ》＋《ボイパと海行かば》（2020）

25:00 - 25:10 三輪眞弘 箏と風鈴のための《もんじゅはかたる》（2019）

25:30 - 26:00 三輪眞弘《神の旋律＋流星礼拝》（2020版）

作曲・企画・構成：三輪眞弘

映像監督：前田眞二郎

フォルマント音声合成：佐近田展康、詩：松井茂、写真：麥生田兵吾

主催：サラマンカホール

共催：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]、京都大学人文科学研究所

ウェブブラウザのリンク：

- ・ 「三輪眞弘祭 - 清められた夜 -」特設ウェブサイトのトップページ（作品解説なども日英両言語に切り替えられます）
- ・ 『神の旋律』（布教放送）ジェネラティブ・ストーリーミング（部分）
- ・ 『人形たちのための五芒星』（姉妹作品）公演アーカイブ（27'30"）

